

富士山火山防災避難マップ

～もしもの噴火に備えて～

富士北麓版



富士山は、清らかな水や素晴らしい景観などを与えてくれる大切な山ですが、一方で、これから噴火をするかもしれない活火山でもあります。このマップは、富士山ハザードマップ検討委員会の検討成果、さらに山梨県による詳細な検討データをもとに作成したもので、噴火警戒レベルごとの避難方法などが記載されています。日頃から熟読していただき、もしもの場合に備えてください。

- 【発行】 富士山火山防災協議会・山梨県
＜協議会構成市町村＞富士吉田市・富士河口湖町・西桂町・山中湖村・忍野村・鳴沢村・身延町＞
- 【協力・資料提供】 内閣府（内閣府防災担当）・総務省（消防庁）
国土交通省（河川局・気象庁・関東地方整備局・中部地方整備局・富士砂防事務所）
山梨県環境科学研究所
- 【監修】 荒牧重雄・池谷 浩・興水達司・小山真人・宮地直道
- 【調査製作】（財）砂防・地すべり技術センター
- 【発行日】 平成18年3月 【印刷】（株）サンニチ印刷
- 【修正日】 平成22年3月

※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の50万分の1地方図、20万分の1地勢図及び5万分の1地形図を複製したものである。（承認番号 平17総復、第930号）

このマップで想定している噴火規模と現象

このマップでは、溶岩流、噴石、火砕流、融雪型火山泥流の危険地域を主に対象としましたが、火山灰など他にも影響を及ぼす災害現象があるので注意しましょう。

○ 火山灰の影響について

- 富士山が噴火すると広い範囲に火山灰が降る場合があります。
- 火山灰は火口近くで厚く積もり、遠くに行くほど薄くなりますが、その分布範囲は風向き、や風速、噴火規模によって大きく変わります。
- 火山灰が積ると、健康への悪影響や農作物の被害、交通障害、停電や家屋の倒壊などが起こりやすくなります。
- その後の降雨により土石流が発生しやすくなります。

○ 想定する噴火の規模

- 大規模噴火が起こる直前には前兆現象が観測される見込みがあるため、事前の避難が可能となります。
- 小規模の場合は前兆現象を見逃すこともあります。山麓の街への影響は小さいと考えられます。
- 実際に噴火した場合、現象の及ぶ範囲はマップに示した全地域ではなく、火口の位置によりその一部だけとなります。

過去の富士山の噴火実績

大規模	2%（864年貞観噴火、1707年宝永噴火）
中規模	11%（剣丸尾溶岩、印野丸尾溶岩など）
小規模	87%

役所から出される情報にしがたい、早めの避難を心がけましょう。

防災機関の連絡先

富士吉田市 安全対策課 0555-22-1111	鳴沢村 総務課防災担当 0555-85-2311	気象庁 甲府地方気象台 055-222-9101
西桂町 総務課防災担当 0555-25-2121	身延町 総務課防災担当 0556-42-2111	山梨県 消防防災課 055-223-1432
忍野村 総務課防災担当 0555-84-3111	富士吉田警察署 警備課 0555-22-0110	山梨県 砂防課 055-223-1710
山中湖村 総務課防災担当 0555-62-1111	富士吉田消防署 0555-22-0119	※道路情報の問い合わせ先
富士河口湖町 管理課防災担当 0555-72-1111	河口湖消防署 0555-72-0119	日本道路交通情報センター 055-232-5000

富士山火山防災協議会ホームページ(富士吉田市ホームページ内)

URL: http://www.city.fujiyoshida.yamanashi.jp/forms/info/info.aspx?info_id=1638

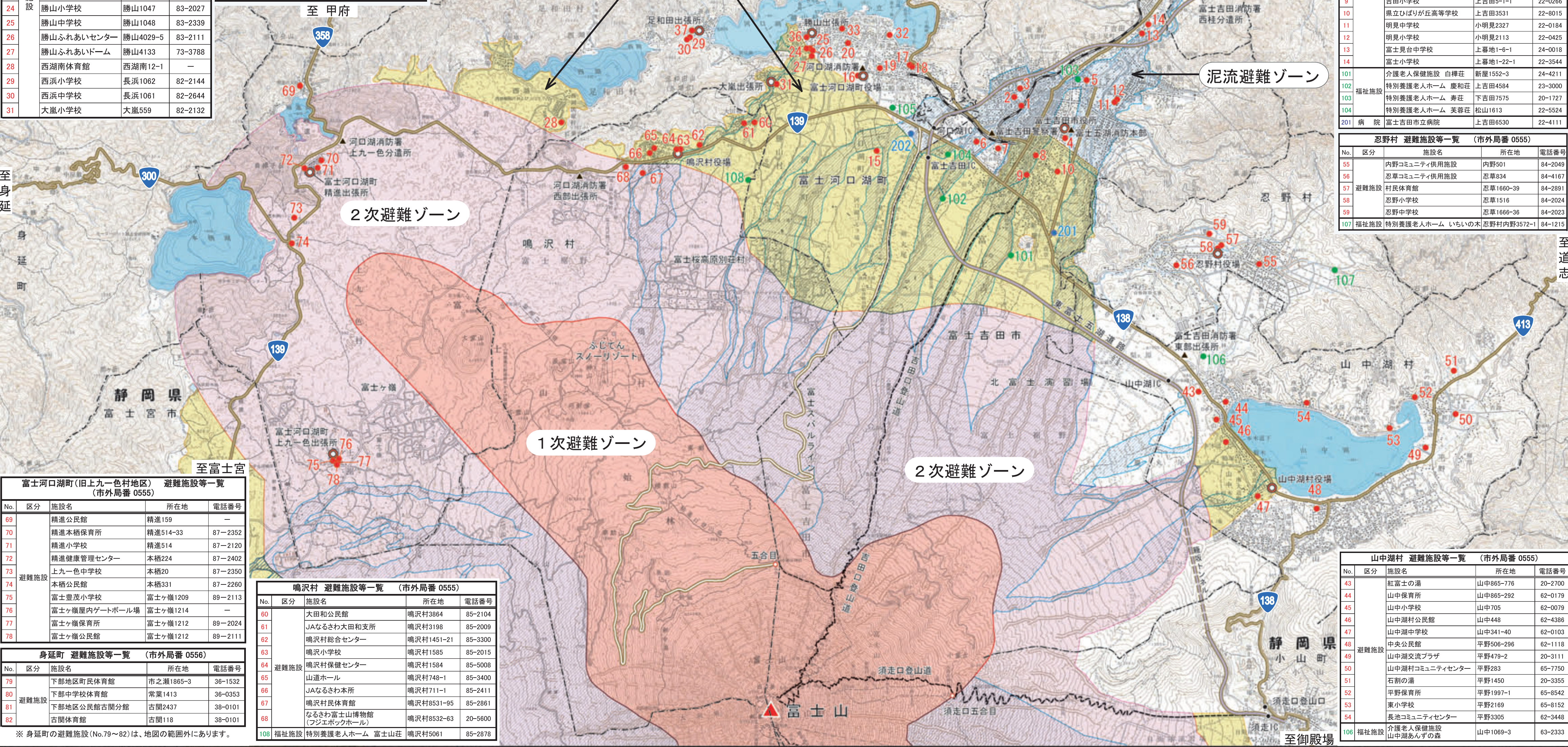


左のQRコードで携帯電話からでもご覧になります。

http://www.city.fujiyoshida.yamanashi.jp/div/bosai/html/kazan_kyougikai/kyougikai_i.htm

富士北麓版 避難ゾーン区分図

富士河口湖町 避難施設等一覧 (市外局番 0555)					富士河口湖町 避難施設等一覧 (市外局番 0555)				
No.	区分	施設名	所在地	電話番号	No.	区分	施設名	所在地	電話番号
15		町民体育館	船津5542-1	73-1220	32		船津福祉センター	船津6713-51	72-1417
16		中央公民館	船津1747	72-0001	33		小立福祉センター	小立6777	72-2008
17		船津地区公民館	船津3737	—	34		大石福祉センター	大石72	76-7702
18		船津小学校	船津3737	72-0052	35		河口福祉センター	河口6-1	76-7302
19		河口湖南中学校	船津1164	72-1142	36		勝山福祉センター	勝山1006	83-2921
20		小立小学校	小立2446	72-1512	37		足和田福祉センター	長浜1222	82-2311
21		大石小学校	大石1425	76-7714	105	福祉施設	介護老人保健施設	船津字 桜休場6901	83-3285
22	避難施設	河口小学校	河口1560	76-7334	202	病院	山梨赤十字病院	船津6663-1	72-2222
23		河口湖北中学校	河口3120	76-7324					
24		勝山小学校	勝山1047	83-2027					
25		勝山中学校	勝山1048	83-2339					
26		勝山ふれあいセンター	勝山4029-5	83-2111					
27		勝山ふれあいドーム	勝山4133	73-3788					
28		西湖南体育館	西湖南12-1	—					
29		西浜小学校	長浜1062	82-2144					
30		西浜中学校	長浜1061	82-2644					
31		大嵐小学校	大嵐559	82-2132					



富士河口湖町(旧上九一色村地区) 避難施設等一覧 (市外局番 0555)				
No.	区分	施設名	所在地	電話番号
69		精進公民館	精進159	—
70		精進本郷保育所	精進514-33	87-2352
71		精進小学校	精進514	87-2120
72		精進健康センター	本郷224	87-2402
73		上九一色中学校	本郷20	87-2350
74	避難施設	本郷公民館	本郷331	87-2260
75		富士豊小学校	富士ヶ嶺1209	89-2113
76		富士ヶ嶺屋内ゲートボール場	富士ヶ嶺1214	—
77		富士ヶ嶺保育所	富士ヶ嶺1212	89-2024
78		富士ヶ嶺公民館	富士ヶ嶺1212	89-2111

身延町 避難施設等一覧 (市外局番 0556)				
No.	区分	施設名	所在地	電話番号
79		下部地区町民体育館	市之瀬1865-3	36-1532
80		下部中学校体育館	常葉1413	36-0353
81	避難施設	下部地区公民館古閑分館	古閑2437	38-0101
82		古閑体育館	古閑118	38-0101

※身延町の避難施設(No.79～82)は、地図の範囲外にあります。

鳴沢村 避難施設等一覧 (市外局番 0555)				
No.	区分	施設名	所在地	電話番号
83		大田和公民館	鳴沢3864	85-2104
84		JAなるさわ大田和支所	鳴沢3198	85-2009
85		鳴沢村総合センター	鳴沢1451-21	85-3300
86		鳴沢小学校	鳴沢1585	85-2015
87	避難施設	鳴沢村保健センター	鳴沢1584	85-5008
88		山道ホール	鳴沢748-1	85-3400
89		JAなるさわ本所	鳴沢711-1	85-2411
90		鳴沢村民体育館	鳴沢村8531-95	85-2861
91		なるさわ富士山博物館(フジエボックホール)	鳴沢村8532-63	20-5600
92	福祉施設	特別養護老人ホーム 富士山荘	鳴沢村5061	85-2878

図の見方と記号の意味

- 年間 1次避難ゾーン 火口ができる可能性の高い範囲です。この範囲に必ず火口ができるとは限りません。
- 年間 2次避難ゾーン 噴火しそうな時、噴火が始まった時すぐに避難が必要な範囲を示しています。噴火した場合に下の3つのどれかに当てはまり、すぐに危険になる範囲です。
- 雪の時期 泥流避難ゾーン 富士山に雪が積もっている時期に噴火が始まった時、すぐに避難が必要な範囲を示しています。融雪型火山泥流が短時間のうちに到達する可能性のある範囲です。
- 年間 3次避難ゾーン すぐに危険にはなりませんが、火口位置によっては避難が必要な範囲です。公的機関から出される避難情報に注意して下さい。また、避難に人の手が必要な方は早めの避難が必要です。溶岩が流れ続けた場合に、1日ぐらいで到達するかもしれない範囲を示しています。

- 1～82 避難施設位置
 - 101～108 福祉施設位置
 - 201～202 おもな病院位置
- 番号は避難施設等一覧表に対応しています。

富士山が噴火しそうになったら、だれが、いつ、どこから、どうやって避難をすればよいの？

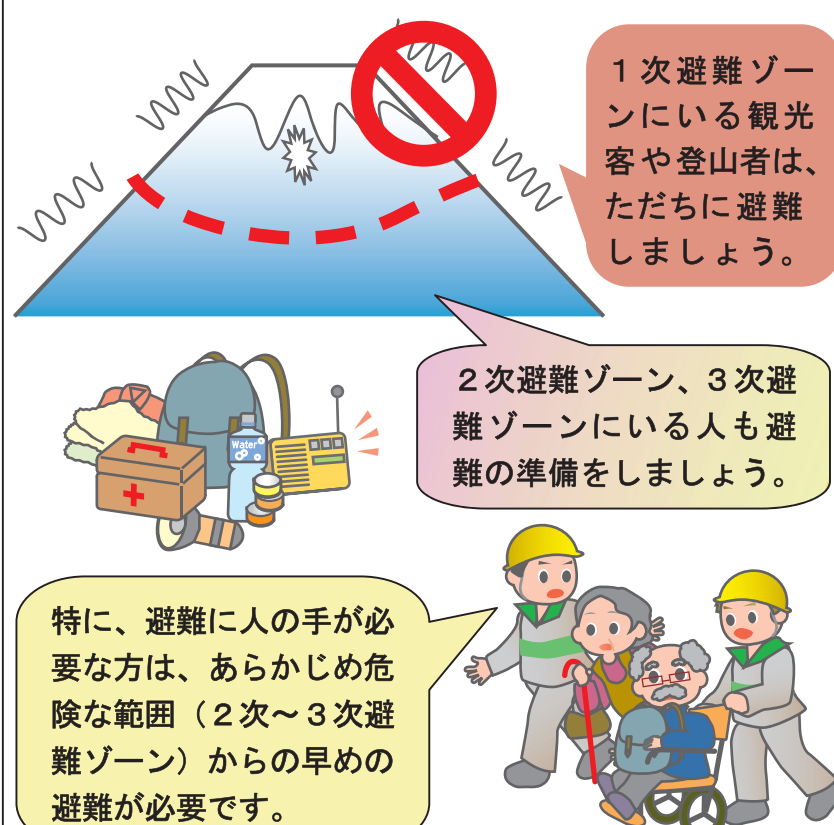
① 噴火警戒レベル3

富士山の火山活動が活発になり、防災上注意する必要がある場合には、気象庁から噴火警戒レベル3が発表されます。



② 噴火警戒レベル4

さらに活動が活発になり、噴火の可能性がでてきた場合には、気象庁から噴火警戒レベル4が発表されます。



③ 噴火警戒レベル5

火山現象による災害から人の生命および身体を保護するために必要がある場合には、気象庁から噴火警戒レベル5が発表されます。



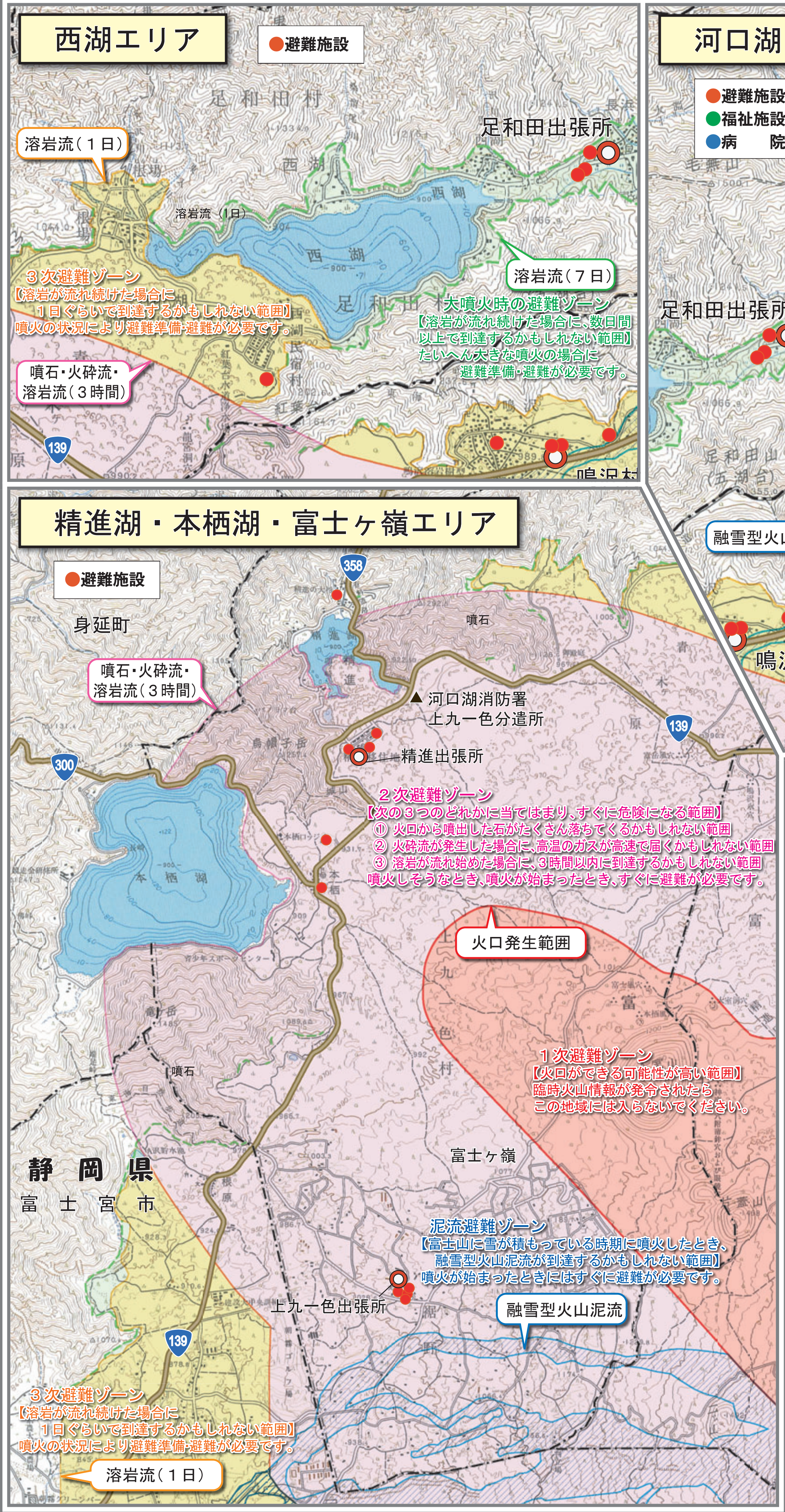
火山活動が急激に活発化した場合には、いきなり噴火警戒レベル4や5が発表されることもあります。

富士山に雪が積もっている時期(概ね10月～5月)は、「泥流避難ゾーン」は「第2次避難ゾーン」と同じ扱いになります。

→ 気象庁からの噴火に関する情報に注意し、市町村からの避難情報にしたがって、落ち着いて行動をしましょう。

最新の火山情報は気象庁のホームページでもご覧になれます。

<http://www.jma.go.jp>



河口湖エリア



これらの地図は、起こりうる現象をひとつにまとめて示したもので、実際には火口の位置や噴火の規模によって影響の範囲は変わってきます。町役場等から出される情報に注意してください。

土石流について：山の斜面に火山灰が厚く積もると、土石流が発生しやすくなるので注意が必要です。

噴石 (ふんせき)



噴火時に火口から放り飛ばされる直径数センチ以上の岩の破片や軽石を噴石と言います。大きな噴石が当たると、家は壊され、けがをしたり命にかかわることもあります。特に火口から半径2kmより内側には、大きな噴石がたくさん飛んでくるので危険です。

写真：2000年有珠山の噴石による被害（伊藤英之氏提供）

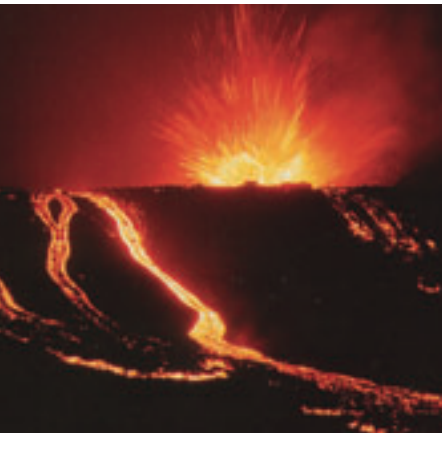
火砕流 (かさいりゅう)



火砕流は、細かく砕けた岩石が、高温のガスとともに斜面を高速で流れ下る現象で、巻き込まれると死亡することがあります。また、火砕流と一緒に高温の強い風が吹きます。この熱風を火災サージと呼び、同様に巻き込まれると死亡することがあります。雲仙普賢岳で発生した火砕流では、約400℃、時速120キロメートル以上で流下し、多くの犠牲者を出しました。

写真：雲仙普賢岳の火砕流（国土交通省雲仙復興事務所提供）

溶岩流 (ようがんりゅう)



高熱の溶岩が斜面を流れ、家や道路を埋め、近くの木々を燃やします。富士山が噴火した場合の、溶岩の流れの速さは、人が歩く程度なので、余裕をもって逃げるができます。溶岩流の影響範囲については、これまでの研究成果や他火山の実績、富士山の溶岩流実績を参考に、コンピューター上で溶岩流の流れの様子を計算しました。シミュレーションを開始した位置については、小規模・中規模・大規模それぞれの火口ができる範囲の外周とし、複数箇所を設定しています。

写真：1985年ネパドテールリス火山の融雪型火山泥流（池谷浩先生提供）

融雪型火山泥流 (ゆうせつがたかざんでいりゅう)



雪が積もっている季節に火砕流が発生すると、雪がいったん溶けて、斜面の土砂を取り込んで、時速60km程度の高速で流れ下ることがあります。おもに谷底など低いところを流れますが、あふれて広がることもあります。

写真：1985年ネパドテールリス火山の融雪型火山泥流（池谷浩先生提供）

火山灰 (かざんばい)



細かく砕けたマグマや岩石が空高く吹き上げられ、風に乗って遠くまで運ばれ地上に降り積もります。特に火口の近くでは、数センチ程度の岩石も降ってくるので危険です。火山灰は、火口近くで厚く積もり、遠くに行くにしたがって徐々に薄くなります。降灰分布は、上空の風向・風速の影響を強く受けるので、特定の気象条件の下で計算された分布予測だけでは、実際の噴火には役に立たない恐れがあります。そのため、特定の季節において気象学的に平均化した降灰分布を作成しています。

写真：2000年有珠山の火山灰による被害（伊藤英之氏提供）

土石流 (どせきりゅう)



山の斜面に火山灰が厚く積もると、雨で流れて土石流になります。土石流が谷を流れる速度は、時速40kmにも達します。特に厚さ10cm以上積もる地域では何回も土石流が起こることがあります。

写真：雲仙普賢岳の土石流（国土交通省雲仙復興事務所提供）

富士河口湖町版 富士山火山防災避難マップ

大切です！

自らの安全は自ら確保するという災害に備えての心構えが大切です。

確認しよう！

このマップは火山活動によって身近に危険がせまる時を想定して作成したものです。皆さんが住んでいる場所や勤めている会社の場所などによって避難の仕方が変わります。ふだんから家族やまわりの人達といざという時のために話し合っておきましょう。



- 家族で確認しましょう
- 避難場所までの経路を確認しましょう。
 - 常に家族全員で避難できるとは限りません。お互いに職場や学校での避難場所や連絡方法を確認しましょう。
- 噴火しそうな時、噴火が始まった時には
- 気象庁が発する火山情報に注意しましょう。
 - デマや噂に惑わされないようにしましょう。
 - テレビやラジオのニュース、新聞、市の広報などを聞いて正しい情報を得ましょう。

避難に備えて準備しましょう。

■避難のときの持ち出し品

普段から防災用具をチェックし備えましょう！！

☐ ヘルメット	☐ マスク
☐ ゴーグル	☐ 衣類
☐ 水・非常食	☐ 常備薬
☐ 雨具類	☐ 防寒具類
☐ 携帯ラジオ	☐ 通帳・印鑑・カード
☐ 毛布・タオル	☐ 電池・ライター
☐ 乳児用品	☐ 介護用品
☐ 救急用品	☐ 懐中電灯・ロウソク
☐ 現金・貴重品	☐ その他

- 避難する場合は、以下に注意しましょう。
- 忘れてませんか？
- 戸締まり、電気、ガスの元栓を確認しましょう。
 - 貴重品は忘れずに持参しましょう。
 - 非常持ち出し品を確認しましょう。
 - 外出中の家族のために、避難先を書いたメモを残しましょう。

- 避難する場合は・・・
- 市町村役場や消防団などの指示に従い、落ち着いて行動しましょう。
 - お年寄り、赤ちゃんのいる人、体の不自由な人、外国人などの避難を助けましょう。
 - 小石が降ってくることがあるので、ヘルメットなどで頭を守りましょう。また灰を吸い込まないようにマスクやゴーグルをつけましょう。
 - くぼ地には有毒ガスがたまりやすいので、近づかないようにしましょう。

災害用伝言ダイヤル (毎月1日には、体験サービスがあります。(1月1日は除く))

避難時の安否情報の確認には、NTTの『災害用伝言ダイヤル』が便利です。

局番なし で 171 にかけて 知人の安否情報を確認 できます。

自動アナウンスにしたがって簡単に 自分のメッセージを録音

災害用伝言板(携帯電話) (毎月1日には、体験サービスがあります。(1月1日は除く))

「災害用伝言板」は、自分が被災地にいる場合に、携帯電話から伝言板に自分の安否情報を登録し、家族や知人が携帯電話やインターネット上から確認できるシステムです。